

昭和四十三年十二月招集

第四回市議定例會會議錄(第三号)



館山市議会第四回定例会議録(第二号)

昭和四十三年十二月招集

十二月二十日(金曜日)

一 議事日程(第二号)

第一 通告質問

認定第一号 昭和四十三年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十三年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

算の認定について

認定第三号 昭和四十三年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

出決算の認定について

第二 認定第四号 昭和四十三年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

の認定について

認定第五号 昭和四十三年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

決算の認定について

認定第六号 昭和四十二年度館山市館山ユースホステル特別会計歳

入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十二年度館山市南部簡易水道事業特別会

計歳入歳出決算の認定について

第三 報告第五号 館山市水道の設置及び管理に関する条例の一部

を改正する条例に関する専決処分報告について

第四 議案第五号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例

の一部を改正する条例の制定について

第五 議案第六号 老人家庭奉仕員派遣事業に関する条例の制定

について

第六 議案第七号 館山市水道の設置及び管理に関する条例の一部

を改正する条例の制定について

第七 議案第八号 市道路線の變更について

第八 議案第九号 字の区域及び名称變更について



第九議案第十八号 昭和四十三年度館山市一般会計補正予算（第四号）

議案第十八号 昭和四十三年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第三号）

議案第十八号 昭和四十三年度館山市簡易水道事業特別会計補正予算（第一号）

第十

議案第十八号 昭和四十三年度館山市休養施設特別会計補正予算（第二号）

議案第十八号 昭和四十三年度館山市館山ユースホステル特別会計補正

予算（第二号）

午前十一時三十分 開議

副議長（西村真次君）本日の出席議員数 二十五名。

二時より第四回市議会定例会第二日会議を開会いたします。本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

日程第一 通告による行政一般質問を行ないます。

一八番議員 安西益男君 御登壇願います。

(一八番議員 登壇)

一八番(安西益男君) 私は二点の点につきまして当局を考慮をとお尋ねしたい。このように思うものでございます。

まず最初の一といたしましてと畜場を改築並びに環境衛生ということについてでございます。

御承知のように、現在と畜場の建物につきましては昭和十年に建てられた。このように聞いておるわけであります。

すでに三十数年に及んでおる。こういう状況下にある。そのように思うわけであります。

戦後公共的な建物は逐次改善さかたつある現在特にこのと畜場の場合には多量の水を使用する。

たとえば、ふた一頭の解体につきましては水一トンを使用しなければならぬ。このような規定もなされておる。

それだけに木造建築等であるということから、こゝと畜場や老朽化の現状が問題になってくるのではなかろうか。このように思うものでございます。

この件につきまゝではすでに昨年度一般質問の際におきまして二、三年うちには五派なものを作る。このようなお話があったわけでありますが、その後経過をぜひお聞かせ願いたい。特に強調して参りたい点。この点につきまゝでは現在、処理方法でございします。

環境衛生の面あるいはまた公害等の面におきまして法的な規定がなされておるでございしますが、現在、処理状況はどうでありまゝうか。汚水あるいは汚水物が公共用水域に放流されておる昨今、付近、下流周辺に住宅工場等、進出も急増しておる。かつまた、湊り、潮止め工事、進められておりまする現在、すみやかに浄化設

備すなわち浄化槽の設置の問題はまことに急務であ  
ろうかと思われるのであります。

今日まで特に問題はなかったが、カーながら今後にも配  
はないということはほとんどできない。このように思うも  
うございます。検査員、職員等々に配もまたそこにあろ  
うかと思われるのでございます。

先般再度にわたって現状も見、何ヶ所かの撮影もして  
参ったのであります。まことに憂慮すべき事態である。  
このように察するであります。

地域住民の不安を一掃する上からも、またこの浄化施設  
浄化槽設置の件につきまゝは、新年度におきまゝて  
ぜひともこの計画が進められますよう、また実現します  
よう特にお願いしていきたい。このように思うものでござ  
います。

第三点といたしましては長期計画によるところの街路灯の設置。この件についてでございます。文化生活に伴い明

かるい町づくりは時代が推移とともに検討され、取り組んでいかねければならぬ点にきておるものではなからうか。当館山市におきましては状況は周知の如く一部中心街を除いては全く悪く観光都市館山市としてはあまりに不向きな情景ではなからうか。当然防犯の上からも、またさらに交通と安全の面からも十分検討されていかねければならぬ問題となつてきておる。このような思ふもござい

ます。悲惨な交通事故また暗がりにより多い犯罪行為を常に危険にさらされておる状態であります。住民を守るためにも町を明かるくするためにも今後激増していくであろう事故を未然に防ぐ一助の上からも明かるい町づくりに対しては今後の計画をいかに進め

られていきますか。この二点につきまして、当局より考えをお尋ねする次第でございます。以上です。

(市長 登壇)

市長(本間譲君) 安西議員より御質問に對しましてお答えいたします。

第一点、場所の問題でございますが、場所は衛生的で環境がいいということが立地条件でございますが、また施設する面におきましては、と場法に定められた施設を行なう。これが私は基本ではないかと思っております。

立地条件といたしましては、まあまあというところですね。あそこは、カー、その他、施設については、このと場法に準拠しておいたわけでございますけれども、ただ浄化槽が前から御指摘いただきましたが、まだできておらないわけでございまして、まあ館山市におきましては、一番考え

られることは、と場を近代的に作ることに、それからもう一つは、大葬場を近代的にやるということが大きく考えられておりますが、こゝからは、やはり、財政上の関係、いろいろございしますが、と場につきまゝでは、四十一年から積み立て金をもつて、大体本年で九十万ぐらいになりますか、そういう準備をしておるわけでございしますが、浄化装置と付帯設備をするために九月に果て方々に起債の申請をしておりまして、起債は四十四年にできれば結構ですが、最終には、四十五年、こちらを思うように起債がいけば、四十四年中途でも追加でもやる。こういう考えでございまして、四十五年には必ず、浄化槽とそれに付帯する設備をやっていく。こういうことでございしますが、できれば、全部を近代的設備にする方がいいと思ひますけれども、まあ、現段階におきましては、とりあえず、浄化槽を作りまして、衛生的で、しかも公害にならないように、配慮

ーていきたい。こういうふうに考えております。

それから、~~街~~街路灯の問題でございますが、現在市の方で登録といひますか、わかっておる方が総体で六百三十四あります。そううち市でやったのが二百七十五、それから商店会がやったのが二百三十三、防犯協会がやったのが、百二十、交通安全対策協議会がやったのが、五灯、市以外には、三百五十九、合計、六百三十四、現在設置されております。市でもって、まかなうておる電灯料が、四十二年度におきまして、五十九万四千円を、市が直接払っておるわけです。その他は、防犯協力会とか、交通安全とか、商店会とか、そういうところで負担をしておるわけでございます。

御指摘のように、最近には、非常に市街地もふえて参りまして、新しく家もたくさんできますし、そうして、御指摘のような面もございますが、先般航空隊、社宅



ですか。あそこうところに東電にお願いしてつけたような例もございしますが、これは防犯協力会とか、あるいは交通安全協会とか、それらの方々の協力を得て、だんだんにやって参りたいと思います。どうしても、交通対策、防犯対策からまいても、くらい道ではもちろん、いけないわけでございまして、御指摘のように検討して参りたいと思っておりますわけでございます。以上です。

一八番(安益男君) 今市長さんから御説明があったわけでございしますが、予算面、あるいはまた法的な面、そういった面実は前回法的な面におきましては、前吉田課長から法的に及んでおるものがあるやだということとは十分認めておるといような回答もございましたが、特にこれはあつた住宅、さらにはあつた業務というものは、直接市民に直接結んでおる。そういう面から先ほども申し述べましたよう

に今までは何ら危険という様な状態もなかったが、あるが、カーナガラ、これから、そういうことに取り組んでいかねければならない。事故があとからは間に合わない。またいろいろ病気等もとにかく配う面がある。

これは非常にむづかしい病名がありますが、豚コレラとか人畜に感染するやうな危険度が高いという病気の対策とか、さらにはあつ周知に流すところの水の水質検査をしたことがあるかどうか。そういう面につきましても若干お尋ねーたいと思います。こゝうに思つてわけでございますが、衛生施設課長(大嶋重義君)にだいま御質問にお答え申し上げます。

こゝ流域の關係でございますが、病疫の検査、そういうものにつきましては、保健所の検査員がすることになっております。

それから流水の水質検査でございますが、こゝにつきまゝではあそこ血液、または汚水は一定あそこ裏に水槽のようなものがございますが、そこを通りて下り川に流れておるわけでございますが、その水質検査につきまゝでは行なつてございません。

一八番(安西益男君)こゝは水質検査等も是非やつていただきたい。その状況を把握しておくべきではないか。こゝのようにに配するわけでございますが、いろいろ血液検査、あるいは精密検査、こゝは保健所の先生方がやるということとは考えらるわけでございますが、やはり一番に配する先ほど市長さんからお話があつたように浄化槽の施設だけは何とんでも起債ということも申請しておるといふことでございますが、極力、こゝ方々運動も促進していただいて計画は十分していらつゝある

という考えりようでございしますが、浄化槽はとりあえず今年度に何とか設置できるような方法に大いに運動していただきたい。こゝように思うわけでございます。それともう一点はやはりああいった仕事でございしますので、臓物ですね。骨。そういった処理は現在どういうふうになさるりますか。

衛生施設課長（大嶋重義君）臓物でございしますが、実はあそこへの処理場が大半。ほとんどが豚でございします。豚とくとと申しまして、生後一年未満のものを申すわけですが、それかございします。豚等、臓物と申しますか。内臓につきましても、ほとんど全部業者がめれば、商品価値がございまして、引き取って商品化してあるようでございします。なお、皮類、そうしたもの、それから頭についてもやはり引き取って、それ、食品として扱ってあるようでございします。

極端でございますが、つめやうなもので、非常に食品が  
だしとか、そういう面に貴重なものとして扱われておるとい  
ことで大体、豚関係につきまゝでは、そのまま商品に食品と  
して始末されていくという、状態でございます。

一八番(安西益男君)一部は焼却場で焼却しておるとい  
うことも聞いておりますが、これは現段階ではそういう面は  
あるわけでしょう。

・衛生施設課長(大嶋重義君)申し若しまたが、食品化せないと  
ころが骨類とかいろいろございますが、これは正木が衛生  
処理場に運びまゝで、ここで焼却処分をして処理してあり  
ます。

一八番(安西益男君)以前はよく湊りで骨をときどき見たとい  
うことがあったんですが、現在は、そういうことはないと思  
います。要するに、とりあえず、急務であるということには、浄化槽の設

備に~~山~~焦点が向けられるのではないか。こゝろに  
 思うわけでございますが、是非とも新年度を期して  
 そゝ実現に極力御努力願いたい。こゝろに切望する  
 わけでございます。と商場と関係につきまゝでは以  
 上でございます。

それから街灯ですね。街路灯と申しますか。実際に  
 こゝは今度館山市とさういう夜々情景といいますが、  
 実態というものをよくごくらうでありますがお調べ  
 をいただきたい。こゝは急処に計画ということも非常  
 に困難性があるのではないかと思われますが、年々一つ  
 何百万かずつふやしていく。さういうような計画を是非  
 立てていただきたい。

非常にこゝからいへばんな事故。あるいは防犯上からも  
 そういった住民を導くといふことから、長期計画

によつて進めていただきたい。このように思うわけでございませうけれども、その計画等が見通しがございまいたらう。そういう点でお聞かせを願いたい。このように思ひます。

土木課長（飯田治男君）　ただいま市長からも話があつたと思ひますけれども、今までは一応、今まであるものを管理して来たということでございませうが、今後防犯とか交通上からも考えまゝて、市街地から在り部落に入るところや道とか、そういうところを調査し、まゝて年々たとえは十本、十本、十本、十本、十本、十本という計画を立てて御要望にこたえるように対処していきたいと思ひます。

一八番（安西益男君）　是非、そのように進めていただきたいと思ひいます。以上で終ります。

副議長（西村真次君）　以上により通告質問を終ります。午前會議はこゝにて休憩いたします。

午後は一時本会議を開会いたします。

午前十一時五十分

休憩

午後一時三十分

再開

・副議長(西村真次君) 午後の出席議員数 二十三名

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第二認定第一号乃至第七号 昭和四十二年度一般会計並びに特別会計決算書を一括して議題といたします。  
こゝ際申し上げます。

本日の日程、各議案の説明は先日の会議より終つておりますので、本日はただちに質疑より行ないます。

こゝより認定第一号乃至第七号を一括して質疑を行います。



なお御発言はページをお示しくださるようお願いいたします。  
ます。御質疑願います。

・二五番（田村源治郎君）二、際動議を提出したいと思ひます。  
ただいま議題となっております。認定第一号乃至第七号、  
昭和四十二年度一般会計並びに特別会計決算書につきまし  
ては、なおたくさん御発言があらうと存じますが、決算  
の審査はきわめて慎重を要することであらうと思ひます。  
ので、ひとまず、質疑をこの辺で打ち切りまして、決算審  
査特別委員会を設置いたしまして、なお審査に相当する日  
数を要するかと存じますので、その期間を三月、定例会  
までと一、審査を付託されますよう。ここに議会運営協議  
会を代表いたしまして、議事進行の動議を提出いたした  
い次第でございます。

なお委員の数は十名といたしまして、選任の方法は議長

監査委員 並ぶにすでに決算委員に選任さへたものを除いて任期中 全員が決算委員に選任さへますよう御配慮下さる議長より指名によって選任 いただきたいと存じます次第であります。以上申し上げまして 満場より御賛成を得たくここにお願いする次第であります。(拍手)

副議長(西村真次君) ただいま二五番議員君より提出さ

れまゝの議事進行の動議を議題といたします。

本動議は認定第一号乃至第七号について質疑は打ち切り なお慎重審査の必要上 特別委員会を設置してこれを付託し 関会中 審査の特別付託をいたしたいということであります。

おはかりいたします。

本動議に御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長（西村真次君）御異議なしと認めます。よつて決まりました。  
重ねておはかりいたします。

本動議によりますと、委員の数は十名、選任の方法は前例にならう選考し、議長が指名によらうかといふことであります。こゝに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（西村真次君）御異議なしと認めます。よつて以上のおつ決定いたしました。

こゝより決算審査特別委員会に委員を指名いたします。

四番議員 伊賀多朗君 六番議員 磯辺博君

一三番議員 小柴孝君 一五番議員 石井正君

一八番議員 安西益男君 二二番議員 小沢恵太郎君

二五番議員 田村源治郎君 二七番議員 安沢徳順君

二八番議員 望月照正君 三〇番議員 山口康君

以上十名の方を決算審査特別委員会委員に選任いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（西村真次君）御異議なしと認めます。よつて決まりました。ただいま選任されました決算審査特別委員会委員に認定第一号乃至第七号の審査を一括して付託し、閉会中の継続審査を付議いたします。

こゝに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（西村真次君）御異議なしと認めます。よつて決まりました。ただいま選任されました委員の方は本日中に正副委員長のお五選をさし置いて御報告くださるようお願いいたします。日程第三報告第五号を議題といたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（西村真次君）御質疑なしと認めます。

（以下）本案に対する採決を行いません。

本案を討論省略原案通り承認することに御異議あり  
ませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（西村真次君）御異議なしと認めます。よき本案  
は原案通り承認されました。

日程第四議案第七十八号を議題といたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（西村真次君）御質疑なしと認めます。

（以下）本案に対する採決を行いません。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議あり  
ませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（西村真次君）御異議なしと認めます。よって本案は討論省略原案通り可決されました。

日程第五 議案第七十九号を議題といたします。

八番（黒川正君）一点だけ伺いたいと思います。この奉仕員の仕事は内容を見ますと看護婦的な要素もあるようにも思われるし、また雑務的性格があるようにも思われる。この第六条の身分は常勤の市職員とするところから、市職員というところはわかるんですが、この場合の身分は行政職一に該当するのか、行政職二に実施されるのか、お考えを伺いたいと思います。

それから採用するという過程になったり、おおよそ何名ぐらい採用するのかわかるのか、伺いたいと思います。以上です。

福祉事務所長補佐（山口一君）お答えいたします。一応奉仕員の身分につきましても、条例にございますけれども、常

勤り市職員という事でございす。

業務の内容はただいまお話のように看護婦的あるいは  
雑務というふうになると思いますが、看護というふうな専  
門的な職務につきまゝては、市の保健婦さんを派遣いたし  
まゝて、その方によって御指導をしていただくという考え方  
で奉仕員の方は雑務的な仕事の方が多いううふうに考  
えております。従いまゝて一行二り方を適用するとう  
考えてございます。

職員の数でございすが、現在ところ三名程度を考えて  
おります。

副議長（西村真次君）御質疑ございせんか——御質疑  
なしと認めます。

こゝより本案に対する採決を行ないます。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありま

せんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御異議なしと認めます。

よて本案は討論省略原案通り可決さしました。

日程第六議案第八十一号を議題といたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御質疑なしと認めます。

よて本案に対する採決を行ないます。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議あり

ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御異議なしと認めます。よて本案

は討論省略原案通り可決さしました。

日程第七議案第八十三号を議題といたします。



(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御質疑なしと認めます。

二、いまり本案に対する採決を行ないます。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御異議なしと認めます。よって本案は討論省略原案通り可決されました。

日程第九議案第八十五号を議題といたします。

ただいま市長から議案第八十五号昭和四十三年度一般会計補正予算の内容の一部を訂正したい旨申し出が  
ありました。

二、際補正予算中一部訂正の件を日程に追加し、  
議題とすることに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長（西村真次君）御異議なしと認めます。よって訂正の件を日程に追加し議題とすることに決定いたしました。補正予算中一部訂正の件を議題といたします。市長から訂正の理由の説明を求めます。

（市長 登壇）

市長（本間 讓君）ただいま御承認をいただきました昭和四十三年度一般会計補正予算の内訳の一部改定について御説明いたします。

補正予算中内訳の一部訂正をお願いいたします。部分は第二表債務負担行為中、北条小学校用地購入について、次に新たに館山船舶通協が農林金融公庫から二百三十万円を借り入れ、荷さばき所の事業を施行するにあたり、これが借り入れに対して市が損失補償をすることによって、債務負担行為として追加しようとする

もつてあります。

これは先般協議会うときに御了承を得てあつたわけでございますが、荷さばき所は総工費三千五十九万円で作られるわけでございますが、そううち、国果補助千二百三十万円、月、市、補助が四百五十万、この議会で半分を議決を願つたわけでありますが、その他千二百三十万円を農林中央金庫から借り入れするその損失補償行為、こういうわけでございまして、これは市及び果が逖て通して通協の令解を進めた関係もございまして、補償いたしましても、現在の通協の状態からいたしまして、決して市に迷惑のかからないことを私は信じておるわけでございまして、どうぞ御了承をいただきますと思います。

副議長(西村真次君)おはかりいたします。

ただいま議題となつております補正予算中、訂正の件

についてはこれを承認することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君) 御異議なしと認めます。

よて補正予算中一部訂正の件についてはこれを承認することに決定いたしました。

○議案第八十五号の質疑を行ないます。

一四番(徳山ヨネ子君) 教育費のことでちょっとお尋ねいたします。教育費の二ページ事務局費、小学校費、中学校費、高等学校費、全部見ますと大へんお金を残していらつてゐるんですが、それが大体原材料費が多いんですわ。三ツいうのもうはもちろんだ額としては非常に少ないんですけれども、各項目とも全部器具費とか教材費とか、そういうふうに出て来ておりますけれども、半年もたつておきまして、幾らか、そういう予算が狂つて余つてくるかもしれませんけれども、

ども、少しずさんな感じがするんですが、この点について御説  
明いただきたいと思います。

・教育委員会庶務課長（干場伊右エ門君）ただいま御質問でござ  
います。が、小・中学校関係の予算、これは当初予算  
が通過するとともに各小・中学校に配当してあったのでござ  
います。その配当された額内において現在までに各学校  
で使用してきたものがあるわけでございますが、それをやはり  
途中において各学校から一回取って見る。そういう状態  
になつてゐるかというのを見るわけでございますが、そうす  
るとどうしても今見て三月の末までに予定を立てて見ま  
して、足りないところとそれからこれは更正してもだいじょうぶ  
だという、そういう見通しを立てて一応追加、それから減  
額、そういうものを立てたわけでございます。

特に学校器具費等を更正してございますが、最初備

品費で購入するということで予算を計上しても、実際に購入する場合には、二月以下よりも、消耗品から出すというふうなこともございます。若干、そういう点において相違が出てくるわけでございます。

そういう関係も、今回追加、それから減額を提  
出したわけでございす。よろしく願います。

○四番(遠山ヨネ子君)あとの方、お答えで流用とあるというこ  
とになるのでは、うけれども、ですから、予算作成するとき、流  
用しなければならぬような予算の編成の仕方もおか  
い。それから、非常に少額ではありますけれども、三  
いう更正をしなければならぬような数字を出すという  
ことは、何か教育委員会自体が、計算の仕方、あるいは  
運用の仕方に、ちよとへたところがあるように思ふんですけ  
れども、それについても、もう少し深く説明していただければあ

いやないか。

私が考えるには、結局委員会が各学校から受ける受け方がなつとあいまいではないかと思うし、また配当されたものに対して、各学校も少額であるということと、それからお金に対する予算に対する考え方が弱いように思ふんです。  
なつとそうお答えを願ひたいと思ひます。

・教育長(高木正君) お答えいたしたいと思います。

まず、学校予算の見方につきましては、消耗品、その他につきましては、各学校ごとに標準額というものを決定して、それでこの予算執行が的確になるように、また予算の見積りが的確になるように、研究中でございます。

できるだけ早い機会に合理的な予算が組まれ、合理的に使へるようになりたいと思ひます。

それからいろいろ御指摘がありまして、中で減額されている



面は教育、振興面ではございませんで、学校管理費の面でございます。

従つてこの面については教育の效果という面からは、そうさしつかえないと思ひます。御指摘のやうな不備な面がございまして、こういう結果になつたと思ひますが、今後氣をつけたいと思ひます。

二四番(遠山ヨネ子君)大体お氣持はよくわかりましたけれども、ここまで御答弁でここまでいただけうも、を出さして、それから、こゝから資料にするやうなことでございしますから、それを確實に実行してむだのない使い方を、いただきたいと思ひます。

一九番(島野茂樹郎君)歳入の一ページに諸収入、雑入并償金、この生活保護費、六十三条による返還金、収入三十万一千円、追加、六十三条に返還金というものが、性格と



いますか。それを御説明いただきたいと思ひます。以上です。  
福祉事務所長補佐（山口一君）

お答えいたします。生活保護法、六十三条の規定でございますが、これは被保護者が急迫した事情にある場合には、資力があつても生活保護を適用してよろしい、  
一か、その受けた保護金口は、資力が生活費に充當できるうになつた場合には、その保護費を返還するようになつた規定でございます。

御承知のとおり、生活保護の方法は、原則として、資力がある場合には適用は受けられないことになっておりますが、ただいまうように急迫した事情がある場合には、資力があつてもとりあえず保護を適用いたしまして、その急迫した状況が解除されたときには、すぐに給付いたしまして、保護費を返還してもらつたということでございます。

ます。それがこゝ六十三条によります。返還金という  
ことになります。

二番(中村省吾君)歳出の方で小学校費、中学校費  
の中で宿日直代行員、ページ数は二二ページニ三ページに  
入っておりますが、宿日直代行員のことでございますけ  
れども御説明によりまして土曜・日曜・日直を  
廃止されてこゝのために代行員を置くということござ  
います。

まず、お聞きたいのは代行員の任務といたしますか、ど  
こまで任務責任度合というものがあるかどうかという  
ことが一点。

それから、この代行員を各学校でどういう人たちに代行  
しておるか、どう実能でございますか。その点をお聞かせ  
願いたい。

・学校教育課長(猿藤二郎君)代行員の任務については現在普  
通り教職員がやっている任務とほぼ同じであります。ただ、  
文書等や決着等についてはいたっておりません。従いまして  
電話による連絡とか、あるいは盗難、火災、その他学校ごとに  
内規がありますが、その内規に従って代行員制度を設けて  
おります。従って先ほど申し上げましたように文書その他決  
着等はいたしませんけれども、その他は全部同じような任務  
を持っております。

次に代行員の実態でございますが、各学校ごとに依頼し  
てありますが、主として信頼のおける人、健康に異常な  
い人等を考慮して学校から推薦のあった者に対して  
教育委員会が辞令を出して行なっております。以上です。  
。ニ。番(中村省吾君)まず一点目、もう少しくわしく御説明願  
いたいと思いますけれども、任務というものが、これは先生方

の宿直ということにも関係いたしますけれども、具体的に申し上げまして、火災、盗難という言葉があつたんです。が、学校火災があつた場合、その場合、責任度合はどうなるか、簡単にそれだけ。

・学校教育課長(遠藤一郎君) 断続的勤務であります。つて、たとえば学校ごとに巡視時間がきまつております。従つて巡視時間以外による火災、その他盗難については責任はありません。

・二番(中村省吾君) そうとおりであらう、いわけてございますけれども、ただ、たまたま千葉の方で生没小ですか、火事がございまして、そのときは、確か先生が処分されて、さう思ふんです。減俸三カ月かなんか、つたと思ふんです。さういうふうな責任がないといつても、現実には処分された者があるといふと、それが果たしてその責任がないといふ

ふうにはっきり言い切れるかどうか。その方法でやっていただけならば結構でございますけれども。現実には、こういうものができておるといふことで、ちよつと私もどうかと思つて聞いたわけでございます。再度その点、断続勤務であるから、規定された時間に見回わつて、そのとき異常がない。それ以外ならば、責任がないということではよろしいわけですね。

それからもう一点が、この代行員を率直に聞きますが、幼稚園の先生を頼んで、いかどうか。こういう事例があるかどうか。ありまうたら、その実態を教えていただきたいと思ひます。

・学校教育課長（遠藤一郎君）幼稚園の先生の場合には、果費負担教職員でありませんが、ただいま御指摘のやうに、日直等を行なつてゐる学校もあります。

一かゝる問題につきまゝでは、同じ校内に住んでおりますが、ただ果費負担教職員でないという関係から

日直をやらせることはまずいと思ひます。現在はこの  
をやめさせる方向に進んでおりますが、現時点において  
は行なっております。

実態を申し上げますと、那古小学校 二名、日直に使用  
おります。

東小学校で同じく二名、神戸小学校で三名、富崎小学  
校で二名以上日直に使用しております。以上です。

ニ番(中村省吾君) 私は宿日直とも先ほど責任という  
ようなことから聞きたくわけですが、宿直にまいても  
仮りに幼稚園の先生、果實でない市費ですから、そうい  
う中でまっくらにまします。幼稚園の先生は  
自分幼稚園という自分の勤務場所に対して幼稚園  
園教師ということとで責任が相当あるわけです。

なおかつ、そつ上に小学校の宿直をやるということになると

非常な責任を感じる。従つてこれはやはり、この代行員の  
人選難ということはあるうかと思ひますけれども、幼稚園の  
先生を宿直にさせるということは、その本人にとつては非  
常に苦痛だと思ふんです。この責任というものは、何もなけ  
ればいいけれども、何か起きるのではないかという、危惧の  
念、そういうことが精神的に苦痛にもなる。なるべく  
こういうことはすみやかに改善いたしまして、ほかの方に代  
行してもらつたような措置を取つていただきたいと思ひます。  
それからなおもう一点伺ひますが、この代行員の制度を  
現在は、土曜、日曜を廃止するという方向でありまして  
なおこれは一週間に一ぺんですかというふうな、それ以上  
はゑらぬというふうなことになると思ひますが、このことが  
いつまで続いて将来、こういう日直、宿直というのに対  
する教育委員会として考へ方はどうであるか、この点



と一つお聞かせ願いたいと思います。

・学校教育課長(遠藤一郎君) 先ほど宿直ではありませんで日直でありますので、誤解のないようにお願いしたいと思います。

それから将来の問題でありますが、当然これは無人化の方向に進むかと思えます。現在第一段階として畑小学校から無人化へという問題が起きておりますけれども、四十年度予算には取っておりませんけれども、近い将来畑小学校に無人化へと大体大学級ぐらいまでは将来無人化に進みたいという事は教育委員会内でも話合っておりますので、その問題についてはさらに具体的に検討していきたいと思えます。以上です。

・二番(中村省吾君) 無人化という言葉がふさふたわけですが、確かに文部省の方で無人化ということで施設や補助を



出ています。

そのために申請をすれば、確か三十六万円に對して、三分の一の補助を出すという制度があると思います。

そういった方向を取っておるのかどうか、近く取る予定があるのかどうか、その点伺います。

・学校教育課長（渡藤一郎君）現在には取っておりません。

大体畑小学校の場合だけは取りたいという考えを持っており、ますけれども、まだそこまで踏み切っておりません。

・教育長（高木正君）第一、点は幼稚園、職員等使わないようにしたいと思ひます。

第二の点につきまゝては無人化でございすか。無人化につきまゝてはすでにある市域の状況等よく調べて、又障がないうことが判明したら、予算的措置も善処したいと思ひます。

ニ番(中村省吾君)大体了承しました。この無人化につき  
 ましては文部省としても無人化の方向を取ろうとして  
 いるようでございます。なおかつ補助の問題も具  
 体的にはそういうために申請をなさうという事になす  
 おると思う。これはその制度を適用して十二万といえども  
 そういう制度があるんですから。そういう制度を適用して  
 宿日直というも、代行員を採すために苦勞をする  
 ということを解消するわけでございますからすなわかに  
 検討して実施されることを要望いたしまして、終わります。  
 一五番(石井正君)二点伺います。

ニ三、ニ四ページ教育費の中で小中学校における音楽  
 コンタイルの会場バス補助がここに出ております。  
 一点お伺いしたいことは、音楽ばかりでなく、基本的に各  
 教科、いわゆるコンタイル会場に補助を出すという委員

会が基本的にどの程度うしろまで出ておるのか伺いたいわけです。

たとえば、具体的にいいますと、ここていうと、関東大会ですか。全国大会ですか。大きなものには出すけれども、小さなものには出さないのか。その基本をどこに置いてゐるのか。これは前回市長がたとえば夏季の水泳クラブ等にバス、農村から海岸まで出ておるような話を前にされたわけですが、そういうものにもやはり、関連しますか。どの程度まで、こういうものに、それを出していいのか。これは非常に問題があると、思ふのでお聞きするわけです。

それから二点目は、幼稚園費の中で、関連で申しわけないんですが、北条幼稚園の下校時が非常に早いということ。現在一時半ですか。生徒を迎えに行くことで、身にするわけですが、いろんな観点があるのかと思ひますが、委

員会ではこの点をどうように解釈してゐるか。我々も少し早いではないかという素人見をしてありますが、この点なお館山市那古船形幼稚園では何時に下校されてゐるか、この点をお伺いいたします。

・学校教育課長(遠藤一郎君) 館山市代表である場合には補助を出しております。

今回音楽コンクールについては館山市代表で東日本決勝大会という大会でありますので、出場校全部についてバスを借り上げられました。その他音楽以外についても館山市代表であるというところがはっきりすれば出ております。なお二点につきましては教育長の方から。

・教育長(高木正君) 第一点につきまして補足しますと、各種大会運動の基準というのが文部省から出されておりますので、体育関係についてはそれに処していただきたい。

と思います。

文化活動関係については課長からお答えのとおりです。  
それから幼稚園につきましても、石井議員の方から御指摘  
がありまして、すぐに園長に会いまして、もう三十分ぐら  
い延長するようにということをお話してございます。

それで幼稚園においては一日四時間保育が原則でござ  
います。これが長くなりますと、子供たちが疲れて寝  
たりいたします。幼稚園では子供たちが休憩した

り、施設がございせん。そういう状態が起きない  
うちに下校させたい。そういう考え方で今までできておりま  
して、他の幼稚園は大体水曜日は午前中、それから  
土曜日はもっと早くあつて、二時半頃下校されてお  
ります。北条は現在一時半でございしますが、もう三十分ぐ  
らい延ばして二時頃までにして、状況を見、御質問の

御趣旨にそうようにいっていきたいと思います。

副議長(西村真次君)他に御質疑疑ごいませんか。——  
御質疑なしと認めます。

三小(より)本条に対して採決を行ないます。

本条を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御異議なしと認めます。よって本条は  
討論省略原案通り可決されました。

日程第十 議案第八十六号 議案第八十七号 議案第八十八号  
議案第八十九号以上 特別会計 予算案を一括して議題  
といたします。

九番(三幣勇君)特別会計の二五ページがリースホテルの十八節  
備品購入費について伺います。

まず、まことに申しわけございませんが、ユースホステルは、県営であり、鳩山荘は、市営であるということをもういっぺん間違いないかどうか、教えていただきたいと思います。

それから、備品購入費のうち当初予算の三十九万五千円を使用し、内訳をお答え願いたいと思います。

・商工観光課長（山田俊康君）御質問の第一点、鳩山荘は、市営であります。

ユースホステルは、県立館山ユースホステルでありまして、営業は館山市営ユースホステルです。ユース、所有者は千葉県であり、営業は千葉県でありまして、営業しております。館山市であります。備品購入費の内訳でありますけれども、資料をただちに取り寄せてお答えいたします。

・副議長（西村真次君）ただいま、九番議員君の第二点、質問を保留いたしまして、他に御質疑ございませんか。

暫時休憩いたします。

午後二時八分 休憩

午後二時三十分 再開

副議長（西村真次君）休憩前に引き続き会議を開きます。

保留となっておりまして九番議員君の質疑、そう二点について答弁を求めます。

・商工観光課長（山田俊康君）大へん失礼いたしました。

備品費 三十九万五千円、今まで支出したものがあります。

けれども冷蔵庫におきまして、フリーザーともで十万六千円、テ

レビ五万四千、ハミリ映写機 二万五千円、それから夏の間、補助

ベット非常に多く、会員がきまして、補助ベットを買

まして、これが九万出ております。なお、ここに減額いた

しまして、ガスターは修繕費で修繕をいたしまして



現実には鳩山荘で使っていたものでありますけれども鳩山荘のお客さんが非常に多くなつて、いかにも客の人数でいきますとロースター自身が小さ過ぎるというふうなことを前々から言われておりましてこの際、それではユスでまだ何とか修繕すれば使えるからということと、そちらに移して修繕して使うようになった次第であります。

九番(三幣勇君)もう一点だけお尋ねいたします。備品の移動についてはどんな形で行なわれているか。その点だけ。

南工観光課長(山田俊康君)鳩山荘にありましたときから相当地に痛んでおりまして鳩山荘自身三十五年に開設いたしまして現実にその後修繕を何回かゑつてようやく持ちこたえてきたわけであります。

現実に鳩山荘自身が使うものについては廃棄処分という

ような形でないとうまくないだろうというふうなことから一応ロスター自身 そろそろ ユースホステルに持つていったというのが現状であります。

副議長(西村真次君)他に御質疑ございませんか。――  
御質疑なしと認めます。

こゝより本案に対する採決を行ないます。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御異議なしと認めます。よて本案は討論省略原案通り可決さしました。

この際議事日程についておはかりいたします。

昭和四十四年一月一日から新組合として発足いたします。  
千葉県競輪組合議会議員の選挙を本日9日程に迫

加し、ただちに登壇を行ないたいと思ひます。

二小に御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御異議なしと認めます。よつて競輪

組合議会の議員の選挙を日程に追加し、選挙を行

なうことに決定さしめました。

暫時休憩いたします。

午後二時二十八分 休憩

午後三時四十分 再開

副議長(西村真次君)休憩前に引き続き会議を開きます。

二小に千葉県競輪組合議会、議員の選挙を行

ないます。

昭和四十四年一月一日より新組合として発足する競輪組合の規約第五条の規定により本市より選挙される議員は二名であります。

おはかりいたします。

選挙の方法は地方自治法第百十八条第二項の規定により指名推選によりたいと思います。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御異議なしと認めます。よって選挙の方法は指名推選によることに決まりました。

重ねておはかりいたします。

指名の方法は議長において指名することにいたしたいと思ひます。

これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて議長  
において指名することに決まりました。

千葉県競輪組合議会議員に鈴木市蔵君、山口康  
君、以上両名を指名いたします。

おはかりいたします。

ただいま議長において指名いたしました両議員君を競輪組  
合の議会の議員の当選人と定めます。ことに御異議あ  
りませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて

ただいま指名のとおり) 鈴木市蔵君、山口康君が

千葉県競輪組合議会の議員に当選されました。

ただいま組合議会議員に当選されました鈴木市蔵君

山口康君が議場におられます。本席より会議規則第三十二条二項により告知をいたします。

ニ、際御報告申し上げます。

決算審査特別委員会より正副委員長を互選し結果、委員長に石井正君、副委員長に磯辺博君がそれぞれ当選されました。御報告いたします。

おはかりいたします。

以上をもちまして本定例会に付議されました議事案件はすべて議了されました。よって本日をもちいて第四回市議会定例会を閉会いたします。ことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御異議なしと認めます。

よって本定例会はこゝにて閉会と決しました。

午後三時四十三分 開会

本日、會議に付いた事件

一 議事日程に加えて

一 千葉県税輪組合議會議員選挙

出席議員

石井輝久 鳴田石蔵

伊賀多朗 藤田益治

磯辺博 白熊盛太郎

黒川正 三幣勇

西村真次 小柴孝

山田教字 遠山ヨネ子

石井正 五十嵐昇

安西益男

島野茂樹郎

中村省吾

小澤恵太郎

飯田義男

田村源治郎

秋山大三郎

安沢徳順

望月照正

鈴木市蔵

山口康

大席議員

吉田勇治郎

菊井敏博

江田徳太郎

関武夫

田中禄郎

出席説明者

一 第一日目に同じ

出席事務局職員

一 第一日目に同じ



右会議の次第を録しここに署名す。

昭和四年十二月二十日

館山市議会議長

吉田

南

治

同

副議長

西

村

善

次

同

署名議員

安

西

島

島

島

同

山

田

教

育

育

